

## 令和7年度「校内サポートルーム(KSR)研究指定校事業」 成果報告書

### 1 指定校・指定校群 ( 観音寺市立豊浜中学校 )

### 2 実施内容

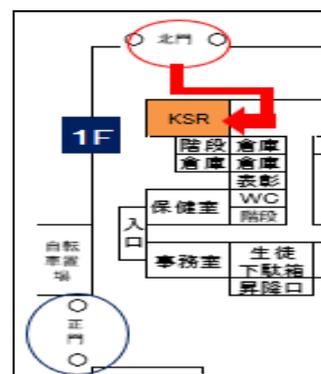
本校は、KSR-1 (専属の加配教室) が配置され、3年目である。本校の指導体制は、1年目は空き教員が、2年目は常駐教員が、3年目は複数教員がチームで対応する「チーム担当制」で取り組んでいる。最も苦慮したことは、KSRに対する認知度ならびに理解度の向上である。まず、生徒・保護者が知らないことからスタートしたため、2・3年目の4月のPTA総会では校長から保護者に周知した。また、学校に登校しにくい生徒や教室に入りにくい生徒には、担任や養護教諭から積極的に周知し、見学や体験につなげた。下表は、今年度KSRを利用する生徒の状況である。

	学年 性別	授業 日数	欠席 日数	行事への参加			R6 欠席
				AB 修学旅行(5.19-21) CD 宿泊学習(12.1-3)	体育祭 (5.31)	合唱コンクール (10.30)	
A	3男	148	62	○	○	○	69
B	3女		51	×	×	×	76
C	1男		34	△(2日目のみ参加)	×	×	8
D	1女		18	○	○	○	0

#### ○居場所づくり

設置当初からKSRに通級している生徒は、右図のように他の生徒と校門や自転車置き場を別にし、目につかないようにしている。2・3年目は核となる担当を配置し、信頼できる人がいるという安心感をもとに人間関係を構築し、学校に登校しやすい環境づくりを心掛けた。

また、今年度初めてKSRの生徒同士のつながりを目的に、「みんなの時間」を設定し、2学期に調理実習を計画した。生徒同士で協力しながら、食パンラスクの作成をした。



【KSRの場所】

#### ○学習環境

教科書やワークの一部をKSRに置いておくようにしたり、学級の時間割を見て自分で参加する授業を決めたりした。また、定期テストは、教室・KSRのどちらでも受験できるように対応した。KSRでテストを受験する際の遅刻・早退を許可し、生徒の状況に応じて受験できるよう工夫している。行事は、どのように参加するか事前にKSR担当や学級担任と相談しながら自己選択・自己決定するようにしている。

#### ○組織的な支援体制

職員間で情報共有できるよう、生徒ごとの個別ファイルを作成し、登下校した時間や活動内容、生徒の様子を記入した。学級担任との関係を築くために、「あゆみ」を活用して毎日の記録を提出するようにしている。教職員全体には、職員会で各学年主任から話をしたり、月1度の校内支援委員会で伝えたりして共通理解を図った。他の生徒と同様「心の元気度チェック」を実施し、生徒の精神的状況を把握し、養護教諭とのつながりをもてるようにした。

【個別ファイルの様子】

また、SCを活用した支援について、SCは本校と豊浜小を複数年兼務しており、生徒の人間関係や家族の状況等の情報共有がスムーズに行われている。SCが来校時にKSRを訪問し、生徒と直接会話をして表情や話し方から読み取れたことを、KSR担当や学級担任等と情報共有し、より適切な支援につなげている。

### 3 成果

#### (1) 校内サポートルームにおける児童生徒の様子

今年度の「チーム担当制」により、信頼できる教員を複数人つくることで、安心して登校しやすい環境づくりができた。下表は、生徒Bの今年度のKSRでの様子である。

生徒B	<p>昨年度から継続してKSRを利用している。体調不良で欠席することもあるが、昨年度より欠席日数は減少傾向にあり、学校で滞在する時間も長くなっている。今年度、テストの時間は正規より短い、定期テストは全科目を受験することができた。進路に向けて体験入学に参加したり自分でパンフレットを取り寄せたりし、通信制高校に合格することができた。現在、教科の学習とともにタブレットを用いたタイピング練習にも励んでいる。</p> <p>生活全般において休日の過ごし方を話しかけてきたり、勉強がわからないので教えてほしいと声をかけてきたりと、自らコミュニケーションをとるようになったと感じている。</p> <p>下表は「心の元気度チェック」の結果である。1学期より「朝、学校へ行きたい」気持ちの向上、自尊感情の向上が読み取れた。1学期は「周りが自分のことをどう思っているのか気になる」ことがあったが、3学期には少し回復している。</p>							
		生活	自尊感情	対人関係	休養	気分転換	ストレス度	合計点
	1学期	16	15	20	20	19	20	110
	3学期	20	18	20	20	20	20	118
	差異	+4	+3	0	0	+1	0	+8

#### (2) 校内サポートルームにおける活動及び支援の工夫

##### ア 学習面

時間割をホワイトボードに記入し、見通しをもって過ごせるようにした。教室での授業に参加したい気持ちをもつ生徒には、自分のペースで頑張れる時間を決めることができた。学年団の教員がKSRに訪れ、生徒とコミュニケーションをとったり学習支援をしたりすることで、安心感を得られたり学習意欲を継続したりすることができた。

家庭科などの作品づくりには、教科担任が生徒と日程調節し、KSRで制作することができた。

##### イ 活動面

「みんなの時間」でKSRの生徒で食パンラスクの調理実習を行った。活動中には、普段のKSRでは見られなかった異学年での生徒の会話が見られ、どの生徒もこの活動を楽しんでいた。生徒が、日ごろ関わっている教員にもプレゼントし、「おいしかったよ。」などと声をかけてもらい、生徒は「またやりたい。」や「次は何をつくらうか。」など、前向きな発言がみられた。

色紙や画用紙、新聞紙を置き、季節の飾りやいろいろな種類の紙飛行機を折って、登校意欲につなげた。また、生徒の中には自ら色紙を持参し、「一緒につくりましょう。」と声をかけることもあり、生徒の気持ちを前向きにすることができた。

#### (3) 総括

空き教室を利用し、教室とは異なる雰囲気の校内サポートルームの開設を通して、不登校傾向等の生徒や教室に入りにくい生徒にとって安心した居場所づくりや個別の学習機会を確保し、自らの学びの選択肢を増やすことにつなげることができたと考えている。本校は3年間継続的に取り組む中で、KSRを利用した複数生徒が進路獲得につながったことが大きな成果と捉えている。

今後も、生徒の社会的な自立を目指し、生徒の最善の利益を最優先に支援することを大切にしながら、校内サポートルームを継続していきたいと考えている。